

岩波映画作品を対象にした動的映像資料の 目録作成における記述の情報源

——ノンフィルム資料の有用性と当該資料の利用における課題——

李 東 真
山 永 尚 美

目 次

1. はじめに
2. 本研究の目的
3. 本研究の対象
4. 7種類の資料から取得可能な情報と事例
5. おわりに

1. はじめに

岩波映画製作所（以下、岩波映画）は、1950年に設立された映像製作会社である。1949年に物理学者・中谷宇吉郎によって前身の「中谷研究室プロダクション」が設立されて以降、行政や企業からの委託を受け、戦後復興や高度経済成長を記録した「産業映画」「PR映画」「科学映画」「教育映画」「社会教育映画」といったジャンルで数々の傑出した映画・映像作品を生み出した。

しかし、1998年に経営不振から倒産すると、映画のフィルム原版を中心に、資産の処分が進められた。フィルム原版は、2009年に日立製作所から記録映画アーカイブ・プロジェクトへと寄贈され、物理的な保存については国立映画アーカイブ（旧フィルムセンター）が、著作権の処理や管理等については一般社団法人記録映画保存センターが担うという共同運用体制が築かれた¹⁾。

以上の経緯を持った岩波映画の作品情報は、

「記録映像.JP 検索サイト」²⁾と「記録映画アーカイブ・プロジェクト・記録映画検索データベース」³⁾という2つの目録データベースで公開されている。いずれも記録映画保存センター（代表理事：羽仁進氏、事務局長：村山英世氏）⁴⁾によって構築・運用されており、岩波映画が創業から倒産に至るまでの間に製作した映画・映像作品に関するさまざまな情報を登録・参照するための項目が設けられている。その一方で、諸事情により、目録作成に必要な情報を十分に得られないことがままあり、実際上記2つの目録データベースも空の項目（空値）が多い。

そこで筆者らは、岩波映画の作品に関する情報を豊富に含んだ制作資料（概要は第3章で後述）をデジタル化し、目録データベースの各項目に該当する値の取得を試みた。本稿では、当該資料群の記述の情報源⁵⁾としての有用性を明らかにし、制作資料が目録作成作業の一助となる可能性を示す。また、「個人情報の保護に関する法律」（平成15年5月30日法律第57号、令和3年法律第37号による改正）などの法制上の課題によって、本稿で対象とした資料を用いた目録作成の可否判断、とりわけ製作陣やキャストなどの個人名の表示が困難であることを示したうえで、本課題に関わる筆者らの見解を述べる。

2. 本研究の目的

本研究の目的は、目録作成作業における記述の情報源としてのノンフィルム資料 (Non-Film Materials) の利用可能性を示すことにある。ノンフィルム資料とは、動的映像資料自体ではなく「(前略) 映画の製作・配給・上映のサイクルの中で生み出される脚本、衣装、大道具、小道具、進行表、関係者の日記や証言、撮影機材、現像所の諸記録、ポスター・チラシ・スチル写真等の宣伝材料、劇場で販売されるパンフレットやチケットの半券、批評記事、関連書籍といった多岐に亘る紙資料やモノ資料 (後略)」⁶⁾を指すことばである。本研究に用いる制作資料群もノンフィルム資料に属するものであり、その用途は主に「映画文化を知るための資料」⁷⁾としての活用を想定している場合が多い。

一方で、それらの資料には、タイトル、キャスト、製作者、惹句、上映時期・場所など、作品に関するさまざまなテキスト情報が含まれており、映画文化の理解以外にも、さまざまな用途があるものと推察される。

その点で、筆者らが今回デジタル化した7種類の資料は、前述の通り、情報量が豊富かつ高精度であり、目録作成作業における情報源・参照資料としても有用である可能性が高い。本章では、動的映像資料の目録作成作業において第一情報源 (資料自体) から必要な情報を得ることの難しさを明らかにし、続いて第二情報源 (容器、パッケージ、参照資料など) を目録作成に用いることの有用性について述べる⁸⁾。

2.1 動的映像資料の目録作成方法

動的映像資料であるか否かに関わらず、資料へのアクセスには目録が必要不可欠であるが、どのような情報 (項目) をどのように記録するのか (情報を記録する際の決めごと) という具体的な目録の作成方法は、機関によって異なる。

目録は、「書誌記述」(資料の概要情報を記述したもの)、「アクセスポイント」(資料の概要情報を探すための情報)、「所在情報」(資料の排架位置を示すもの) という3要素からなる。図書館界では、1961年にアクセスポイントの国際標準である「パリ原則」が制定されたことを皮切りに、1970年からは書誌記述の標準である国際標準書誌記述 (International Standard Bibliographic Description: 以下、ISBD) が制定され始め、1997年には実体—関連モデル (Entity-Relationship Model) を用いて目録の世界を捉えなおした概念モデルである書誌レコードの機能要件 (Functional Requirements for Bibliographic Record: 以下、FRBR) が発表された⁹⁾、¹⁰⁾。これらの標準などを礎として、これまで、英米目録規則 (Anglo-American Cataloging Rules: 以下、AACR)¹¹⁾、日本目録規則 (以下、NCR)¹²⁾、Resource Description and Access (以下、RDA) などの図書館の目録規則以外にも、IASA¹³⁾ Cataloguing Rules¹⁴⁾、FIAF¹⁵⁾ Cataloguing Rules¹⁶⁾、FIAF Moving Image Cataloging Manual¹⁷⁾ といった動的映像資料を含む視聴覚資料を専門に扱う機関向けの目録規則も策定された¹⁸⁾。

一般的に、市場に流通する出版物 (複製) を主な対象とした共同書誌モデル (書誌ユーティリティを通じた目録作成作業) を確立した図書館では前者を、視聴用の複製のほかに原版類 (preprint elements)、マスタープリント、未公開素材 (unreleased material) をも対象としているがゆえに図書館目録の機能を超える¹⁹⁾目録が必要なフィルムアーカイブでは²⁰⁾、後者の標準類を用いて目録を作成していると考えられる。

しかし実際には、単一の目録規則あるいは複数の目録規則を組み合わせ用いる場合もあれば、標準類を全く参照せず独自の規則を策定し目録を作成する場合もある。動的映像アーキビスト協会 (Association of Moving Image Archivists: 以下、AMIA) が2001年に発表した動的映像アーカイ

ブ機関における目録の実態調査報告“AMIA Compendium of Moving Image Cataloging Practice”によると、既存の目録規則を単体で用いて目録を作成していると回答した機関はなく、すべての機関が、独自に定めた規則のみ、あるいは、いくつかの標準を組み合わせた規則に基づき目録作成を行うと回答している^{21), 22)}。それは日本の機関も同様であり、たとえば、国立映画アーカイブでは、FIAF Moving Image Cataloging Manualをベースにしつつ、EN15907²³⁾、Dublin Core²⁴⁾を拡張したEBUCore²⁵⁾やPBCore²⁶⁾などいくつかのメタデータ標準で定められた項目を組み合わせている²⁷⁾。また、本研究の対象である記録映画保存センターでは、既存の目録規則やメタデータ標準を用いず、経験則に基づいた項目を独自に設け、目録を作成している。このように、目録の作成方法は機関によってさまざまなのである。

2.2 目録作成作業における情報源と第一情報源の限界

前節では、さまざまな目録規則の礎となった目録に関わる国際的な標準化作業や動的映像資料の目録作成方法について概説した。しかし、本研究は、独自の目録規則の策定、既存の目録規則を用いることの合理性とその適否、あるいは項目や記録に関わる決めごとを新たに設けるべきか否か、といったことを論ずるものではない。その目的とは、既存の目録の項目に対応する値 (value) の取得先 (情報源) として、ノンフィルム資料の有用性を示すことにある。具体的には、本研究が対象とする制作資料が目録データベースにおいて空白となっている項目を充実させ、さらには登録されている情報 (量) のばらつきを適正化する、すなわち問題の解消の一助となる可能性を提示することにある。

まず、動的映像資料の目録作成における情報源は、タイトル・フレームやタイトル・スクリーンといった「資料自体」(work itself もしくは item

itself) と本研究で用いる制作資料などの「資料外」(資料自体以外のもの) であり、前節で挙げた AACR, NCR, RDA, IASA Cataloguing Rules, FIAF Cataloging Rules のような既存の目録規則では、前者は“primary sources” (第一情報源) または“preferred source” (優先情報源) の最上位に、後者は“secondary source” (第二情報源) または優先情報源の下位に位置付けられている。その関係性について以下で整理する。

表1は、7種類の目録規則において規定された動的映像資料の目録作成時に参照する情報源を抜粋したものである。FIAF Cataloging Manual (2016) の旧版にあたる The FIAF Cataloging Rules For Film Archives (1991) は「手元にある資料のみから原版の記述に必要な情報が得られることは稀である」²⁸⁾として、情報源の優先順位は設けていないが、それ以外の目録規則、たとえば、RDAの旧版である AACR2R²⁹⁾や、日本の標準である NCR (2018年版) の旧版 (1987年版)³⁰⁾、IASA Cataloguing Rules³¹⁾などは、いずれも「第一情報源」「第二情報源」といった区分または優先順位を設け、資料自体を優先するよう規定している。また、2010年以降に策定された RDA³²⁾や NCR (2018年版)³³⁾も「表現形が動画からなる場合、タイトルフレームまたはフレーム、タイトルスクリーンまたはスクリーンを優先情報源として用いる」としているほか、動的映像資料に特化した FIAF Cataloging Manual でも、目録作成作業における情報源として、資料自体を第一情報源、デジタルファイルに埋め込まれたメタデータ、ラベル、付属資料を第二情報源と規定したうえで、一般的には前者が優先されると記している³⁴⁾。

この点について、ISBD (Non-Book Materials) の概説および NCR (1987年版) を用いた動的映像資料の目録作成における諸問題に関する研究を柱として活動を行った視聴覚資料組織法研究班³⁵⁾は、「実作業において、第二情報源、具体的

表1 目録規則において規定された動的映像資料の記録の際に参照する情報源の抜粋（最新版の出版年順）

目録規則	公開年	第一情報源または優先情報源の最上位に位置付けられる情報源	第二情報源または優先情報源の下位に位置付けられる情報源
FIAF Cataloging Rules 0.4. Sources of Information	1991	優先順位の設定なし	優先順位の設定なし
IASA Cataloging Rules 0.A. Source of information	1999	the item itself accompanying textual material (e.g. cassette insert, CD slick, inlay or booklet, recording/project accompanying documentation such as correspondence, donor agreements, recordist's worksheets, script, transcript, cue sheet); a container that is an original part of the item (e.g. sound cartridge, videocassette, sleeve, container for video); or from	a secondary source such as reference or research works, a publisher's or distributor's brochure, broadcast programme schedule, abstract, index or other available finding aid, container which is not an original part of the item (e.g. a film can used to store a reel of film, tape box for storing audio tape), or the audiovisual content of the item itself.
AACR2R	2005	a) the item itself (e.g., the title frames)	b) its container (and container label) if the container is an integral part of the piece (e.g., a cassette). If the information is not available from the chief source, take it from the following sources (in this order of preference): accompanying textual material (e.g., scripts, shot lists, publicity material) container (if not an integral part of the piece) other sources
NCR1987年版改訂3版 第7章映像資料 7.0.3 記述の情報源	2006	ア) タイトルフレーム（タイトル、スタッフ、出演者などが表示されている画面）	イ) ラベル（カセット、カートリッジ、リールまたはマウント（個々のスライド・フィルムを保護し、映写できるように窓を空けた台紙）に直接表示されている情報を含む） ウ) 付属資料（台本、撮影場面一覧表、解説書など） エ) 容器（箱、缶等） オ) その資料以外の情報源
RDA 2.2.2.3 Manifestations Consisting of Moving Images	2010	If the manifestation consists of moving images (e.g., a film reel, a videodisc, a video game, an MPEG video file), <u>use the title frame or frames, or title screen or screens, as the preferred source of information.</u>	a) a label that is permanently printed on or affixed to the manifestation, excluding accompanying textual material or a container (e.g., a label on a videodisc) b) for a comprehensive description, a container or accompanying material issued with the manifestation c) an internal source forming part of a tangible digital resource (e.g., a disc menu). If none of these sources has a title, use as the preferred source of information another source forming part of the manifestation itself, giving preference to sources in which the information is formally presented.
FIAF Moving Image Cataloging Manual	2016	a) the title frame(s) or title screen(s)	b) embedded metadata in textual form that contains a title (e.g., metadata embedded in an MPEG video file) c) an eye-readable label bearing a title that is permanently printed on or affixed to the resource (excluding accompanying textual material or a container) d) accompanying material or a container issued as part of the resource itself

			e) a container that is not issued as part of the resource itself (e.g., a box, case made by the owner) f) other published descriptions of the resource g) any other available source (e.g., a reference source)
NCR2018 年版 #2.0.2.2.2 動画で構成される資料 #2.0.2.2.2A 有形資料	2018	a) タイトル・フレームまたはタイトル・スクリーン	b) 資料に印刷または貼付された、タイトルが表示されているラベル c) 資料刊行時の容器、または資料自体の一部として扱う付属資料（参照：#2.0.2.1を『日本目録規則2018年版』#2.0～#2.2.12/67見よ。） d) (電子資料の)内部情報源

出所：FIAF Cataloging Rules, IASA Cataloguing Rules, AACR2R, NCR1987年版, RDA, FIAF Moving Image Cataloging Manual, NCR2018年版改訂3版を基に筆者作成

には容器や付属資料から情報（タイトル、著作者、上映時間など）を得ることが多い」としながらも、「同情報源にはノイズ（容器に示されたキャッチコピーなど）があることや、作品の来歴、著作者の責任の大きさなどを正確に判断するには、資料自体を再生し確認することが原則」であると述べている³⁶⁾。

しかし、同班が示したこの原則は、状態が良好な「新品」の作品映画や、十分な資源・設備・環境が整っている場合においてのみ有効であると考えられる。劣化が進んだ資料や、特に同班が活動した時期には容易に入手可能であった再生機器類などの設備・資源が不十分な状況下で目録作成作業を行う場合、資料自体を第一情報源として利用することは困難である。

この点において、本研究が対象とする動的映像資料は基本的にすべてアナログ媒体（映画フィルムやビデオテープなど）であり、フィルム映写機や編集機、ビデオデッキ等が手元になれば、資料自体から目録作成に必要な情報を抽出することはできない。また、再生機器があったとしても、目録作成の担当者が機器を操作する知識・技能を有していない可能性も想定される。あるいは、岩波映画の作品に多く用いられたと考えられるアセテートフィルムは、かねてからその脆弱性が問題視されており³⁷⁾、資料自体が劣化している場合は再生機器に装填することができず、無理に装填

した場合は剥がれなどの損傷を招く恐れもある。

これらのボトルネックを解消するための有効手段は資料のデジタル化であろう。デジタルファイルであれば、原資料を損傷することなく、資料自体を繰り返し再生することが可能になり、その結果、目録作成作業に必要となる作業時間の短縮を期待できる。一方で、アナログ媒体のデジタル変換には多額の費用がかかり、資金が十分でない機関では、デジタル化の実現は困難である場合が多い。また、デジタルファイルだけでは、原資料の媒体種別、物理的長さ、正確な再生時間など、当該資料の形態に関わる情報を得ることができないという面もある。以上のように、目録作成作業における第一情報源または優先情報源として規定されている「資料自体」にはさまざまな制約や限界がある。

2.3 クレジット表示にまつわる課題

さらに、岩波映画という製作会社に固有の問題もある。同社の創立者の1人である吉野が「どんなにいい映画ができて、タイトルにスタッフの名前を出さないことを提唱して、それを守ってまいりました」³⁸⁾と述べているとおり、同社の作品の多くは、デジタルであるか否かに関わらず、映像資料そのものから詳しい製作情報を取得することが難しいという特徴もっている。

このように、動的映像資料がアナログ媒体であ

る場合、資料自体を目録作成作業に用いることは難易度が高く、さらに岩波映画の場合、そこから得られる情報は僅かである。加えて、仮にデジタル化が済んだとしても、映像資料を再生し、情報が表示されているフレームを見つけて転記するという目録作成の作業プロセス自体が時間を要するものであることから、十分な予算や人員を割くことができなければ、作業自体が遅々として進まないということも考えられる。

2.4 制作資料の有用性

このような状況を踏まえると、上述の第二情報源は映像資料の目録作成作業に大きく貢献できる可能性がある。言い換えれば、目録の情報量とは、利用可能な第二情報源の有無またはそれらに含まれる情報量の多寡に大きく左右されるといっても過言ではない。

この点について、記録映画保存センターの浜崎は「『記録映像.JP』に収録されている岩波映画の作品情報は、日立製作所から引き渡された作品リストをベースにしている。その作品リストは、日立製作所が作品原版と共に岩波映画から引き継いだリストに基づいていると思われる」と述べており、これまで参照してきた情報源は必ずしも網羅的なものではなかった可能性が高い。

元々の情報内容が限定的であったがために、「記録映像.JP」に空白の項目が多い、あるいは登録されている情報量にばらつきが生じていたのであれば、目録データベースの登録内容を上回る量の情報を含んだ7種類の資料が課題解決の一助となる可能性は極めて高いといえる。

3. 本研究の対象

ここまで、目録作成作業における情報源としての制作資料（第二情報源）の有用性を確認してきた。本章では、本研究で用いる2つの目録データベースについて概説する。

記録映画保存センターは、「記録映像.JP 検索

サイト」（以下、記録映像.JP）、「記録映画アーカイブ・プロジェクト・記録映画検索データベース」、「全国フィルム所有施設検索データベース」³⁹⁾、「記録映画チラシ検索データベース」⁴⁰⁾、「伝統文化記録映画データベース」⁴¹⁾といった複数のデータベースを構築・運用している。これらのうち、「記録映像.JP」と「記録映画アーカイブ・プロジェクト・記録映画検索データベース」の2つが岩波映画作品を検索することができるデータベースであるが、冒頭で述べたとおり、本研究では前者を用いることとした。その理由は、後者が東京大学・東京藝術大学へのフィルム原版寄贈時の情報であるのに対して、前者は現在に至るまで繰り返し更新され、現時点での最新情報が収録されているためである。

以下では、まず「記録映像.JP」で公開されているデータベース項目を概説した後に、本研究で用いる岩波映画の制作資料の概要を示す。

3.1 目録データベース「記録映像.JP」の概要

記録映画保存センターは、管理する映画作品の情報を独自に定めた項目に従って登録し、「記録映像.JP」を通じて一般公開している。同データベースの公開項目は表2のとおり⁴²⁾。

全26種類に及ぶ公開項目を確認すると、現状では空白（未登録）の項目が多く、また登録されている情報（量）にもばらつきがあることがわかる。

3.2 岩波映画の制作資料群

岩波映画の制作資料群の大部分は、元々は社内向けの業務記録として作成されたものである。全体の多くは謄写版印刷された完成台本と手書きのカット表から成り、基本的に1作品に対して1対の形で残されている。この2つには、作品の製作年月日、スタッフ情報、借用素材や使用楽曲など、前項の目録データベースの収録内容を上回る情報が記載されている一方で、物理的な資料分量

表2 「記録映像.JP」のデータベース項目

公開項目	概要
作品 No	記録映画保存センターが独自に付与した作品の識別子（例：“iw-00001”）。
ジャンル	映像作品を構成するなんらかの要素（題材、テーマ、物語）に基づくカテゴリー、種類、型など。
作品タイトル	作品の本タイトル、並列タイトル、その他のタイトル情報（副題など）。
製作会社	対象作品を製作した会社の名称。社名は製作当時のもの。
スポンサー	行政機関や民間企業等のスポンサードによって製作された作品の場合、委託主である組織の名称を登録する項目である。
製作年	対象作品の製作年。ただし、作品完成年、リリース年の場合もある。
月	製作月。主に「ニュース映画」に適用。
日	製作日。主に「ニュース映画」に適用。
分数	対象作品の再生時間（duration）。秒数は切り上げ（再生時間が6分5秒である場合は7分）。
色	対象作品の色に関する情報。「モノクロ」「カラー」「パートカラー」などの用語を登録 ⁴³⁾ 。
言語	対象作品の映像の文字や音声の言語に関する情報。1作品に対して母国語版のほか外国語版が製作された場合は、別のレコードを作成することなく、同項目内で併記する。
カテゴリー	対象作品の内容に関わるキーワード。
シノプシス	対象作品の内容の要約。
映像内容	対象作品の内容に関するあらゆる情報。
地域情報	対象作品のロケ地や対象地域の情報。
スタッフ	対象作品の製作に関わった者の役割（製作、監督、脚本、撮影など）と氏名。
受賞歴	対象作品が獲得した賞。
画面サイズ	対象作品のアスペクト比 ⁴⁴⁾ に関わる情報。「スタンダード」「ビスター」「シネスコ」などの用語を登録。
備考・関連情報	対象作品に関するあらゆる情報を登録。たとえば、フィルムの劣化状態、欠落している巻（数）、同じタイトル名を持つ異なる作品情報などを登録。
参考画像	対象作品のノンフィルム資料（ポスターやチラシなど）を登録するための項目。登録情報にはデジタル画像へのリンクが張られている。
フィルム原版	原版の形態的特性を登録するための項目。特定資料種別（「ネガ」「ポジ」）、寸法（「16mm」「35mm」）、その他形態に関する詳細（「音付き」）等が登録される。
ライブラリー窓口会社	対象作品の権利を持ち、貸出を行っている会社の名称。
試写	（省略）
素材提供	（省略）
公開動画	（省略）

出所：筆者作成

が多いことから、内容の確認と情報抽出に時間がかかるという難点があった。

そこで、こうした情報をより効果的に収集するべく、完成台本とカット表に代えて表3の7種類の記録をデジタル化し、本研究に用いることとした。

①は、創立20周年を記念して1970年に発行された冊子体の作品目録である。

②は、作品の完成後、制作担当者がルーティ

ン業務として作成した、制作に係るA4サイズのカード式報告書である。カードは制作デスクの元に集約され、年度単位でファイリングされていた。記録媒体がフィルムからVTR（ビデオ）へと移行した後も、カードは途切れることなく蓄積され、テレビシリーズやパッケージ商品等も含めると、ファイルの数は全58冊にのぼる。

③は、会社倒産後に同社の有志が②の資料などを参照して編纂した手書きの作品リストで、

表3 デジタル化した7種類の資料の種別、年幅および冊数(計71冊)

資料	年幅	冊数
① 冊子『作品目録』(岩波映画製作所, 1970年)	1950～1970	1
② 資料「作品カード」	1964～1998	58
③ 資料「作品歴」	1950～1998	6
④ 資料「作品台帳」	1950～1989	2
⑤ 資料「録音台帳」	1960～1978	2
⑥ 資料「楽しい科学(放映用) 作品一覧表 岩波映画」	1957～1962	1
⑦ 資料「外国語版タイトル表」	1957～1960	1

出所:筆者作成

「フィルム篇」「ビデオ篇」「シリーズ篇」, 教材用フィルムやCM・CF, パッケージ商品をまとめた「その他」「スライド関係」の主に5種類がある。

④は, フィルム原版やビデオマザーといった素材の保管場所を管理するための台帳である。

⑤は, 録音部(1989年の社屋移転を機に廃部)で作成された, 音関係の情報が記録された台帳である。

⑥は, 岩波映画が初めて手掛けた科学番組『楽しい科学』の作品一覧表で, スタッフ情報等のほか, 放映日のようなテレビ番組特有の情報が記されている。

⑦は, 海外輸出用の作品に対して, 岩波映画が公式に定めた外国語版用のタイトルが記された台帳である。

以上の7種類の資料は, ③が倒産後に編纂された記録であるほかは, すべて業務の一環で作成されており, 情報の精度は非常に高いものと推察される。

4. 7種類の資料から取得可能な情報と事例

7種類の資料は, 「記録映像.JP」に収録されていない情報を登録するにあたり, 記述の情報源として利用することができる。まず, 同データベース

表4 7種類の資料から取得可能な「記録映像.JP」のデータベース項目に対応する情報

データベース項目/ 資料No.	①	②	③			④	⑤	⑥	⑦
			A	B	C				
作品タイトル	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
スポンサー	✓		✓						
製作年(月日)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
分数	✓			✓	✓	✓			
色	✓			✓		✓			
言語		✓					✓		✓
フィルム原版	✓	✓	✓	✓		✓	✓		
スタッフ	✓	✓	✓	✓			✓	✓	✓
備考		✓		✓			✓		

注: ① 冊子『作品目録』(岩波映画製作所, 1970年), ② 資料「作品カード」, ③ 資料「作品歴」(A. 「作品歴(全作品目録)」, B. 「その他 作品歴 オリジ」, C. 「スライド作品関係(オリジ)」), ④ 資料「作品台帳」, ⑤ 資料「録音台帳」, ⑥ 資料「楽しい科学(放映用) 作品一覧表 岩波映画」, ⑦ 資料「外国語版タイトル表」

出所:筆者作成

スには、映画フィルムやビデオテープといった記録媒体が物理的に残っている作品の情報のみが収録されているため、7種類の資料に含まれる情報を用いることにより、未収録作品の登録が可能となる。さらに、すでに登録済みの作品に対しては、新たな情報を追記する際の情報源として用いることができる。制作資料から取得可能な情報は表4のとおり。

表4に示したとおり、制作資料からは「作品タイトル」「製作年」「月」「日」「分数」「色」「言語」「スタッフ」「スポンサー」「備考・関連情報」「フィルム原版」「映像内容」に該当する情報を取得できる。以下では、7種類の資料を用いて目録作成作業を行うことを想定した、いくつかの事例を示すこととする。

4.1 未収録作品の登録に関する情報の取得

「記録映像.JP」に未収録の作品に関する情報は、②「作品カード」と③「作品歴」から取得することができる。

たとえば、②の『共立学園』（図1）、③-A.「作品歴（全作品目録）」の『場所打ちライニング工法』（図2）の2作品は、映像資料の現物がないため当該データベースには未収録であるが、これらを情報源とすることにより、あらたに作品情報を登録することができる。

4.2 CM・CF作品の登録に関する情報の取得

未収録のCM・CF作品に関する情報は、②から取得することができる。当該データベースは、CM・CF作品の登録数が少ないが、②にはそれらに関する情報も多く含まれている。

たとえば、図3に示したCF作品『日立ジュー

サー』は、当該データベースに登録されていないが、同CF作品の作品カードには、タイトルだけでなくスタッフや原版の種類、製作年（月日）など、当該データベースの項目に対応する情報が豊富に含まれている。このように、②を情報源とすることで、未収録のCM・CF作品をあらたに登録することができる。

4.3 映像資料のフィルム原版やビデオマザーの来歴に関する情報の取得

映像資料の元素材（フィルム原版やビデオマザー）の来歴に関する情報は、④「作品台帳」から取得することができる。④は、1950～1989年にかけて製作された作品の元素材の保管場所を記し

図1 ②「作品カード」の『共立学園』のカード

作品カード		製作	
原 版		8%	米
(国) 8%		35%	35%
(省) 8%		35%	35%
原 題	共立学園	(プリント)	14% 37%
映倫産	(語版)日、英、西、仏、その他	タイトル	着色
企画	権治共立学園	赤、黄、その他	
初号	昭和47年 4月26日	語版	切替カット
ス タ ッ フ			
製 作	権治 権治 権治	技術、デューブ作業	(本題)
脚 本	権治 権治	作品名	C# --- C#
演 出	権治		" "
演 補	石田 雄三		" "
撮 影	岡田 久		" "
操 補	八幡 洋二 日守 正晴		" "
照 明	松橋 仁之		
録 音	依田 信天 川野 義	内 容	期 日
音 楽	依田 信天	(D - B)	10/28
解 説		(A R P)	製作受領 /
繪 画	斎 藤 礼		ネガダテ送り /
整 理	藤 城 通一	(サウンドネガ)	ネガダテ送り /
翻 訳		タイミング打合せ(A R P)	有 無 /
原版保存場所	東洋現像所	原 版 入 れ	/

図2 ③-A.「作品歴（全作品目録）」の『場所打ちライニング工法』の記述

57年一般 4.-1

完成	題 名	分 数	巻 数	型 色	製作	脚本	演出	撮影	録音	台 詞	解説	音楽
1982 1.7	場所打ちライニング工法	16	99.5	8	EKC	内田 収	保泉 芳伸	保泉 芳伸	保泉 芳伸	田辺 信通	大林 組	今尾 博

図3 ②「作品カード」の『日立ジューサー』のカード

作品カード		製作	
原 版 30	題 名 日立ジューサー(工)	原 版 (脚) 8% 16% 35% (音) 8% 16% 35%	8% 16% 35%
映倫点	(語版) 英、西、仏、その他	タイトル着色	
企画	白土 電 電 電 電 電 電 電 電	赤、黄、その他	
初号	昭和 7 年 6 月 / 日	語版切替カット	
スタッフ	30 秒 15 秒		
製 作	高村 宏 暢	抜換、デュープ作業 (本籍)	
脚 本	トニー・ショルマン	作品名 C# --- C#	
演 出	鈴木 清 順	" " " "	
演 補	石川 亨	" " " "	
操 影	根 栄 栄	" " " "	
操 補	伊 村 初 雄 佐 藤 理 子	" " " "	
照 明	高 橋 仁 之		
録 音	野 田 哲 也	内 容 期 日	
音 楽	土 反 田 晃 一 (響 象)	(D・B) 4/29	
解 説	岸 沢 俊 美	(A R P) 製作受領	
繪 画	江 原 重 九 画	ネガアスタ送り 4/30	
整 理	上 杉 和 雄	(サウンドネガ) ネガアスタ送り /	
翻 訳		タイミング打合せ(A R P) 有 無 /	
原版保存場所	東洋現像所	原 版 入 れ 4/31	

た台帳である。原版がすでに破棄されている場合は、「整理番号」欄に「原版破棄」と記載されている(図4)。

この図4にある作品名(『凸レンズ』『社会科教材映画大系 はえのいない町』『海図ができるまで』『手工業』)を「記録映像.JP」で検索すると、5つのレコード⁴⁵⁾がヒットする。

このうち、『海図ができるまで』の登録内容を見ると、「フィルム原版」項目に「35mmの可燃ネガ・16mmプリント」という情報が登録されている。また、「備考・関連情報」項目には、「可燃35mmネガと16mmプリントが海上保安庁水路部で発見され、記録映画保存センターが受け入れる。その後フィルムセンターへ再寄贈。35mmは一部分痛み[原文ママ]が激しく作業不可能と思われる。DVDは16mmプリントより簡易テレシネしたもの」という情報が登録されている。

このことから、『海図ができるまで』の原版はすでに破棄されており、残存している映像資料あるいは原版として登録されている映像資料は複製されたものであることがわかる。つまり、映像資料の来歴がわかるようになる。

4.4 スタッフや使用楽曲などに関する詳細情報の取得

映像作品に用いられた音楽に関する情報や解説を担当したスタッフの情報は、②「作品カード」(図5)および⑤「録音台帳」(図6)から取得することができる。

図5の作品名(『明日をひらく化学工業』『サントリーメルツェンビール』『コカ・コーラのお話』)を元に「記録映像.JP」を検索すると、3つのレ

図4 ④「作品台帳」の一部

25年度 作品表

整理番号	作 品 名	種 別	初号	米数	保管場所	備 考
原版破棄	凸レンズ	B/W 16%	3/	179.0		
1299	螺かいた町	B/W 35%	6/	339.9	ソニーPCL(音A.M.P)	
原版破棄	ぶなは文化に集って	B/W 35%	9/	602.0		
原版破棄	輝く富士	B/W 35%	12/	844.3		
26年度 作品表						
原版破棄	海図をつくる人々	B/W 35%	4/	742.7		
原版破棄	又見川	B/W 35%	6/	496.8	原版破棄	
組合	手工業	B/W 35%	8/	432.2	組合	
原版破棄	発電機	B/W 35%	11/	527.3	原版破棄	
原版破棄	考古文明	B/W 35%	13/	555.0	原版破棄	

No. 1

図5 ②「作品カード」

<table border="1"> <tr><td>題名</td><td>明日をひらく化学工業</td></tr> <tr><td>語版</td><td>① 英、西、仏、独、中</td></tr> <tr><td>企画</td><td>日本化学工業会</td></tr> <tr><td>初号</td><td>昭和52年6月10日</td></tr> <tr><td colspan="2">スタッフ</td></tr> <tr><td>製作</td><td>堀谷 勉</td></tr> <tr><td>脚本</td><td>本</td></tr> <tr><td>演出</td><td>佐藤 圭司</td></tr> <tr><td>撮影</td><td>岡田 久</td></tr> <tr><td>撮影補</td><td>田島 正晴</td></tr> <tr><td>照明</td><td>明</td></tr> <tr><td>録音</td><td>音 佐久間 俊夫</td></tr> <tr><td>音楽</td><td>音 佐久間 俊夫</td></tr> <tr><td>解説</td><td>説 寺田 誠</td></tr> <tr><td>絵画</td><td>面</td></tr> <tr><td>整理</td><td>藤 成 要 一</td></tr> <tr><td>翻訳</td><td>訳</td></tr> <tr><td>原保存場所</td><td>東洋現像所</td></tr> </table>	題名	明日をひらく化学工業	語版	① 英、西、仏、独、中	企画	日本化学工業会	初号	昭和52年6月10日	スタッフ		製作	堀谷 勉	脚本	本	演出	佐藤 圭司	撮影	岡田 久	撮影補	田島 正晴	照明	明	録音	音 佐久間 俊夫	音楽	音 佐久間 俊夫	解説	説 寺田 誠	絵画	面	整理	藤 成 要 一	翻訳	訳	原保存場所	東洋現像所	<table border="1"> <tr><td>題名</td><td>サントリー メルツェンビール</td></tr> <tr><td>語版</td><td>② 英、西、仏、独、中</td></tr> <tr><td>企画</td><td>サントリー</td></tr> <tr><td>初号</td><td>昭和52年6月3日</td></tr> <tr><td colspan="2">スタッフ</td></tr> <tr><td>製作</td><td>岸 善 彌 太郎</td></tr> <tr><td>脚本</td><td>本 吉 屋 順 平</td></tr> <tr><td>演出</td><td>征 矢 茂</td></tr> <tr><td>演出補</td><td>三 角 善 四 郎</td></tr> <tr><td>撮影</td><td>三 角 善 四 郎</td></tr> <tr><td>撮影補</td><td>山 田 元 一 郎</td></tr> <tr><td>照明</td><td>橋 本 孝 明</td></tr> <tr><td>録音</td><td>音 橋 本 孝 明 一 郎</td></tr> <tr><td>音楽</td><td>音 加 瀬 次 男 (NHK)</td></tr> <tr><td>解説</td><td>説 加 瀬 次 男 (NHK)</td></tr> <tr><td>絵画</td><td>面</td></tr> <tr><td>整理</td><td>藤 成 要 一</td></tr> <tr><td>翻訳</td><td>訳</td></tr> <tr><td>原保存場所</td><td>東洋現像所</td></tr> </table>	題名	サントリー メルツェンビール	語版	② 英、西、仏、独、中	企画	サントリー	初号	昭和52年6月3日	スタッフ		製作	岸 善 彌 太郎	脚本	本 吉 屋 順 平	演出	征 矢 茂	演出補	三 角 善 四 郎	撮影	三 角 善 四 郎	撮影補	山 田 元 一 郎	照明	橋 本 孝 明	録音	音 橋 本 孝 明 一 郎	音楽	音 加 瀬 次 男 (NHK)	解説	説 加 瀬 次 男 (NHK)	絵画	面	整理	藤 成 要 一	翻訳	訳	原保存場所	東洋現像所	<table border="1"> <tr><td>題名</td><td>コカ・コーラのお話</td></tr> <tr><td>語版</td><td>② 英、西、仏、独、中</td></tr> <tr><td>企画</td><td>コカ・コーラ KK</td></tr> <tr><td>初号</td><td>昭和52年6月16日</td></tr> <tr><td colspan="2">スタッフ</td></tr> <tr><td>製作</td><td>内 田 収</td></tr> <tr><td>脚本</td><td>本 科 野 澄 子</td></tr> <tr><td>演出</td><td>藤 本 孝 明</td></tr> <tr><td>演出補</td><td>三 角 善 四 郎</td></tr> <tr><td>撮影</td><td>三 角 善 四 郎</td></tr> <tr><td>撮影補</td><td>山 田 元 一 郎</td></tr> <tr><td>照明</td><td>明 室 田 武 久</td></tr> <tr><td>録音</td><td>音 尾 崎 孝 平</td></tr> <tr><td>音楽</td><td>音 宮 崎 浩 志 (コカ・コーラ)</td></tr> <tr><td>解説</td><td>説 伊 藤 三 郎</td></tr> <tr><td>絵画</td><td>面 P-T アニメスタジオ</td></tr> <tr><td>整理</td><td>藤 成 要 一</td></tr> <tr><td>翻訳</td><td>訳</td></tr> <tr><td>原保存場所</td><td>東洋現像所</td></tr> </table>	題名	コカ・コーラのお話	語版	② 英、西、仏、独、中	企画	コカ・コーラ KK	初号	昭和52年6月16日	スタッフ		製作	内 田 収	脚本	本 科 野 澄 子	演出	藤 本 孝 明	演出補	三 角 善 四 郎	撮影	三 角 善 四 郎	撮影補	山 田 元 一 郎	照明	明 室 田 武 久	録音	音 尾 崎 孝 平	音楽	音 宮 崎 浩 志 (コカ・コーラ)	解説	説 伊 藤 三 郎	絵画	面 P-T アニメスタジオ	整理	藤 成 要 一	翻訳	訳	原保存場所	東洋現像所
題名	明日をひらく化学工業																																																																																																																	
語版	① 英、西、仏、独、中																																																																																																																	
企画	日本化学工業会																																																																																																																	
初号	昭和52年6月10日																																																																																																																	
スタッフ																																																																																																																		
製作	堀谷 勉																																																																																																																	
脚本	本																																																																																																																	
演出	佐藤 圭司																																																																																																																	
撮影	岡田 久																																																																																																																	
撮影補	田島 正晴																																																																																																																	
照明	明																																																																																																																	
録音	音 佐久間 俊夫																																																																																																																	
音楽	音 佐久間 俊夫																																																																																																																	
解説	説 寺田 誠																																																																																																																	
絵画	面																																																																																																																	
整理	藤 成 要 一																																																																																																																	
翻訳	訳																																																																																																																	
原保存場所	東洋現像所																																																																																																																	
題名	サントリー メルツェンビール																																																																																																																	
語版	② 英、西、仏、独、中																																																																																																																	
企画	サントリー																																																																																																																	
初号	昭和52年6月3日																																																																																																																	
スタッフ																																																																																																																		
製作	岸 善 彌 太郎																																																																																																																	
脚本	本 吉 屋 順 平																																																																																																																	
演出	征 矢 茂																																																																																																																	
演出補	三 角 善 四 郎																																																																																																																	
撮影	三 角 善 四 郎																																																																																																																	
撮影補	山 田 元 一 郎																																																																																																																	
照明	橋 本 孝 明																																																																																																																	
録音	音 橋 本 孝 明 一 郎																																																																																																																	
音楽	音 加 瀬 次 男 (NHK)																																																																																																																	
解説	説 加 瀬 次 男 (NHK)																																																																																																																	
絵画	面																																																																																																																	
整理	藤 成 要 一																																																																																																																	
翻訳	訳																																																																																																																	
原保存場所	東洋現像所																																																																																																																	
題名	コカ・コーラのお話																																																																																																																	
語版	② 英、西、仏、独、中																																																																																																																	
企画	コカ・コーラ KK																																																																																																																	
初号	昭和52年6月16日																																																																																																																	
スタッフ																																																																																																																		
製作	内 田 収																																																																																																																	
脚本	本 科 野 澄 子																																																																																																																	
演出	藤 本 孝 明																																																																																																																	
演出補	三 角 善 四 郎																																																																																																																	
撮影	三 角 善 四 郎																																																																																																																	
撮影補	山 田 元 一 郎																																																																																																																	
照明	明 室 田 武 久																																																																																																																	
録音	音 尾 崎 孝 平																																																																																																																	
音楽	音 宮 崎 浩 志 (コカ・コーラ)																																																																																																																	
解説	説 伊 藤 三 郎																																																																																																																	
絵画	面 P-T アニメスタジオ																																																																																																																	
整理	藤 成 要 一																																																																																																																	
翻訳	訳																																																																																																																	
原保存場所	東洋現像所																																																																																																																	

出所：『明日をひらく化学工業』『サントリーメルツェンビール』『コカ・コーラのお話』のカードの一部を抜粋

図6 ⑤「録音台帳」

シテ有	No	月日	作品名	版分	形式	巻数	プロ	録音	演出	解説	音楽	音楽	D.B.	サウンド	確気	備考
○	1	5/20	三友アベニュー	(日)	16mm	1	福島 石川 鉄本	味岡 今尾				社	16mm	16mm		
○	2	5/30	明日をひらく 化学工業	(日)	16mm	2	堀谷 佐久間 田口 佐藤 寺田 誠	選曲				社	16mm	16mm	録	B.G.P.
○	3	5/31	サントリー メルツェンビール	(日)	16mm	05	安達 さくら 茂 征矢 加瀬					社	16mm	16mm		
○	4	6/1	コカ・コーラ	(日)	16mm	05	内田 尾崎 録 明田	宮崎	MIT	社	16mm					
○	5	6/11	詩を 読む	(日)	16mm	13	田村 寺田 田村	竹内 三ツ				社	16mm	16mm		

出所：『明日をひらく化学工業』『サントリーメルツェンビール』『コカ・コーラのお話』の部分抜粋

コード⁴⁶⁾がヒットする。さらに、これらの作品の録音情報が記録されているのが図6である。

現在、データベースの「スタッフ」項目に登録されているのは、主に製作、監督、脚本、撮影を担当した者の氏名であるが、図5および図6に記録された情報を用いることで、上記に加えて演出、照明、録音、音楽を担当した人物の情報も追

加することができる。さらに、図6には、使用楽曲などに関する詳細情報が含まれている場合があることから、②⑤を情報源とすることにより、楽曲情報についても充実させることができる。

図7 ⑥「楽しい科学（放映用）作品一覧表岩波映画」の一部

岩波テレビ作品表 33頁

1958年9月15日現在

題名	調査	脚本	演出	撮影	録音	照明	特撮	実験	美術	音楽	解説	線画	編集	整理	東京放映日	九州放映日	大阪放映日	
橋	矢部	矢部	矢部	富沢	甲藤	藤木(佐)	富沢		武田	和田	土方		矢部	上杉	12月1日 (32年)	3月16日	9月2日	
灯火のなりたち	小口	小口	桑野	富沢	甲藤		富沢	土肥		和田	児玉		桑野	上杉	12月8日	3月23日	○	
陶	畠	中村	中村	京富	今野	甲藤		富沢	土肥		甲藤	児玉	村田	富沢	上杉	12月15日	5月25日	○
刃物の切き	小口	小口	京富	今野	甲藤		富沢	土肥			甲藤	児玉		富沢	上杉	12月22日	5月11日	○
バイオリンの仲間	小口	矢部	矢部	野村	谷	安田	藤木(佐)	富沢	土肥		和田	児玉		宮森	宮森	12月29日	4月13日	○
雪の結晶	花島	花島	伊勢	広川	甲藤						間宮	児玉		伊勢	上杉	1月5日 (33年)	3月9日	○
冬の天気図	小口	桑野	桑野	今野	甲藤		富沢	土肥			森本	児玉	市野	桑野	上杉	2月2日	3月2日	○
火の燃えかた	小口	小口	富沢	富沢	甲藤		富沢	土肥			森本	児玉		富沢	上杉	2月9日	10月5日	○
レール	桑野	桑野	桑野	佐藤	甲藤	小島	富沢	土肥			森本	児玉		桑野	上杉	2月16日	3月24日	○
機関車	桑野	桑野	桑野	佐藤	甲藤	田口	富沢	土肥			森本	児玉		桑野	上杉	2月23日	4月6日	○
かんづめ	榛葉	榛葉	榛葉	牛山	甲藤	倉田	富沢	土肥			森本	児玉		榛葉	上杉	3月23日	4月8日	○
熔接	桑野	桑野	桑野	富沢	甲藤	水村	富沢	土肥			森本	児玉		桑野	上杉	3月30日	9月7日	○

4.5 『たのしい科学』の放送日およびスタッフに関わる情報の取得

『たのしい科学』は、1957年12月にスタートした、岩波映画が初めて手がけたテレビ番組である⁴⁷⁾。当該番組の情報は、①『作品目録』、⑥「楽しい科学（放映用）作品一覧表岩波映画」（図7）に収録されているが、特に後者からは、「製作年月日」「スタッフ」に関する情報を取得することができる。

「記録映像.JP」で『たのしい科学』と検索すると207件がヒットする。いずれも「月」「日」の項目が空白となっているが、図7の「放送日」欄にある日付を追加することで、具体的な放送日を登録できる。また、「特撮」「実験」といった科学番組ならではの特別な担当者に関わる情報等を追加することにより、収録内容のさらなる充実化が図れるようになる。

4.6 「作品タイトル」「(外国)語版」に関する情報の取得

「作品タイトル」や「(外国)語版」に関する情報は、⑦「外国語版タイトル表」から取得することができる。⑦は、海外輸出用の作品に対して、岩波映画が公式に定めた外国語版用のタイトルが記された台帳である。

図8の作品名（『味の素』『新しい製鉄所』『新しい水の恵み』）を「記録映像.JP」で検索すると、3つのレコードがヒットする⁴⁸⁾。各レコードの「作品タイトル」「言語」の項目には、図8に示された外国語タイトルや語版に関する情報が現状では登録されていないが、これらの情報を追加することで、当該作品に複数の語版および外国語タイトル（並列タイトル）が存在することがわかるようになる。

図8 ⑦「外国語版タイトル表」の一部

年月日	語版	T I T L E	カット表 NO.
32.10.18.	日語	味、素 NO.2	
	英語	A'AJINO-MOTO	
	仏語		
	ス語		
34. 3. 7.	日語	新しい製鉄所	
	英語	SYMPHONY IN STEEL	
	ス語	SINFORNIA DEL ACERO	
35.12.12.	日語	新しい水の恵み	
	英語	WATER BRINGS NEW BLESSINGS	

5. おわりに

本稿では、制作資料の情報源としての有用性を明らかにし、当該資料群が目録作成作業の一助となる可能性について確認してきた。制作資料に含まれる情報を作品の目録データベースに統一的に反映することは、作品の基礎情報（メタデータ）の充実に貢献するのみならず、多様なユーザーニーズにきめ細かに応え、作品へのアクセス性を向上し、利活用を保証する権利処理等の根拠となるなど、種々の便益に適うものになる。

しかし、これらの資料をオンラインで公開し、その内容をもとに目録データベースの充実に図ろうとしていた矢先、「個人情報の保護に関する法律」（平成15年5月30日法律第57号、令和3年法律第37号による改正）に係る課題があることが判明した。その課題とは、公開を前提に作成されていない民間企業の業務記録に含まれる未公開の個人名には非公知性があり、その情報を目録データベース化するにあたっては、法令に沿って慎重に対応する必要があるというものである。

同法の「個人情報データベース等」とは、個人

情報を含む情報の集合物をいう。映画の目録データベースを「個人情報データベース等」とみなすならば、データの第三者提供を行うにあたっては、利用目的による制限（18条）、個人情報の取得に際しての利用目的の通知等（21条）、第三者提供の制限（27条）などの規定が適用される。また、刊行物以外の情報源から取得した個人情報で、本人（生存者）の同意を得ていない個人情報については、採取して目録レコードを作成することは可能だが、その部分は公表できないとする参考意見もある。

本稿の例は、幸いにも例外規定「学術研究機関等である場合であって、当該個人情報を学術研究の用に供する目的で取り扱う必要があるとき」（18条3項5号）に該当したことから、デジタル化した資料画像そのものを文中に転載することで対応した。しかし、映画の製作スタッフの個人名は、本来であれば作品中にクレジット（公知）される情報であり、表示を控えた岩波映画が特異なケースであったことを踏まえると、資料画像の公開可否および目録データベースへの追記の適否に関しては、今も判断に苦慮しているような状況に

ある。

本稿を通じて、業務記録としての制作資料を目録データベース作成に用いることの有用性を確認してきたが、法制上の課題から、本稿執筆時点で資料画像のオンライン公開は保留とし、業務記録を活用した目録の作成手順についても見直しを行っている。これらの映画情報を文化資源として整備することは、教育や研究活動のほか、各ステークホルダー（製作者や権利者など）にとっても有益であると思われるため、今後の展開可能性について引き続き検討を重ねて行きたいと考えている。

- 1) 丹羽美之. 映像で見る戦後日本の科学技術・社会・文化. 丹羽美之・吉見俊哉編著. 記録映画アーカイブ1 岩波映画の1億フレーム. 東京大学出版会, 2012, pp.1-17.
- 2) “記録映像.JP” <https://kirokueizo.jp/> (accessed 2022-09-28).
- 3) “記録映画アーカイブ・プロジェクト・記録映画検索データベース” <http://www.kirokueiga-archive.com/search/eigadata/> (accessed 2022-09-28).
- 4) 記録映画保存センター. 設立趣旨・概要. <https://kirokueiga-hozon.jp/hozon-center/setsuritsu-shushi> (accessed 2022-09-28).
- 5) 情報源とは「記述の作成におけるデータの記録のよりどころ」となるものであり、記録において優先する情報源を「優先情報源 (preferred source of information)」と呼ぶ。日本図書館協会目録委員会編. 日本目録規則 2018 年版付録 D 用語解説. 日本図書館協会, 2018. https://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/mokuroku/ncr2018/ncr2018_d_201812.pdf (accessed 2022-09-28).
- 6) 石原香絵著. 日本におけるフィルムアーカイブ活動史. 美学出版, 2018, p.21.
- 7) 槇田寿文. “映画ファンのための映画アーカイブ最新事情—知られざるノンフィルム資料の価値”. 映画産業振興機構. 2020-03-23. <https://www.vipo.or.jp/interview/list/detail/?i=1768> (accessed 2022-09-28).
- 8) 本稿では、第一情報源を「資料自体」、第二情報源を「容器」「パッケージ」「参照資料」などとした

が、これは、映画フィルムを媒体とする資料を前提としており、ビデオテープやDVDの場合、目録規則によっては、資料自体に貼付されたラベル、パッケージも第一情報源とみなされる。Miliano, Mary., International Association of Sound and Audiovisual Archives; IASA Editorial Group. “0.A. Source of information”. The IASA Cataloguing Rules: A Manual for Description of Sound Recordings and Related Audiovisual Media. 1999. <https://www.iasa-web.org/cataloguing-rules/0a-source-information> (accessed 2022-09-28).

- 9) 水嶋英治, 田窪直規編著. ミュージアムの情報資源と目録・カタログ. 樹村房, 2017, pp.65-66.
- 10) いずれの標準化作業も国際図書館連盟 (International Federation of Library Associations and Institutions: IFLA) によって行われたものである。
- 11) AACR の第 1 版は英国, 米国, カナダの図書館協会および米国議会図書館の協力によって策定され, 北米版・英国版がそれぞれ 1967 年に刊行された。統一版である第 2 版は 1978 年に刊行され, その後も第 2 版 1988 改訂版が刊行されている。日本図書館情報学会用語辞典編集委員会, “英米目録規則”. 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. 図書館情報学用語辞典. 第 5 版, 丸善出版, 2020. なお, 本稿において AACR に関わる記述については, Anglo-American Cataloguing Rules, 2002 Revision, 2005 Update (以下, AACR2R) を参照した。
- 12) 本稿において NCR に関わる記述については, 1987 年版改訂 3 版および 2018 年版を参照した。
- 13) 国際音声・視聴覚アーカイブ協会 (International Association of Sound and Audiovisual Archives : 以下, IASA) は, 1969 年にアムステルダムで設立された, 記録音声や視聴覚資料の保存に取り組むアーカイブ間の国際協力を仲介する専門家団体である。“About IASA”. International Association of Sound and Audiovisual Archives. <https://www.iasa-web.org/about-iasa> (accessed 2022-09-28).
- 14) Miliano, Mary., International Association of Sound and Audiovisual Archives; IASA Editorial Group. The IASA Cataloguing Rules: A Manual for Description of Sound Recordings and Related Audiovisual Media. 1999. <https://www.iasa-web.org/cataloguing-rules/0a-source-information> (accessed 2022-09-28).
- 15) 国際フィルムアーカイブ連盟 (仏: Fédération

- Internationale des Archives du Film, 英: International Federation of Film Archives: 以下, FIAF) は, 1938年に設立された世界の映画遺産の保存とアクセスに取り組む国際組織である。同連盟は, フランスの法律の下, 非営利団体としてパリ警視庁 (Préfecture de Police in Paris) に登録されており, 管理事務所はベルギーにある。“FIAF Statutes and Rules April 2021 Edition”. International Federation of Film Archives. https://www.fiafnet.org/images/tinyUpload/2021/04/STATUTESandRULES_2021_final.pdf (accessed 2022-09-28).
- 16) Harrison, Harriet., FIAF Cataloguing Commission. The FIAF Cataloguing Rules for Film Archives. München: K.G. Saur, 1991.
- 17) Tadic, Linda., The FIAF Moving Image Cataloguing Manual. Bloomington: Indiana University Press, 2016, <https://muse.jhu.edu/book/51968> (accessed 2022-09-28).
- 18) 日本目録規則, AACR, IASA Cataloguing Rules, FIAF Cataloging Rules は ISBD などを, FIAF Moving Image Cataloging Manual および RDA は FRBR などを基に策定されたものである。なお, FIAF Moving Image Cataloging Manual は, RDA や European Standards Committee (CEN) の Cinematographic Works Standard (CWS) [EN 15744, EN 15907] との互換性に配慮している点にも留意されたい。
- 19) 「図書館目録の機能を超越する」とは, 利用者 (学者, 研究者, 一般市民) だけでなく, 職員の内部利用 (保存, コレクション構築, アウトリーチ, 上映・展示など) に資する機能を指しているものと推察される。ただし, 図書館においても, 利用者が資料を検索するための閲覧目録以外に, 内部利用のための目録, すなわち, 司書が書架整理 (シェルフリーディング) などの事務作業を行うための事務目録を別途作成している点について留意されたい。
- 20) Tadic, Linda., Ibid., p. 2.
- 21) 具体的には, 回答した 33 機関のうち, 6 機関が独自規則のみ, 18 機関が AACR2 を, 9 機関が Archival Moving Image Materials: A Cataloging Manuals (AMIM) を, 6 機関が Archives, Personal Papers, and Manuscripts (APPM), 3 機関が FIAF Cataloging Rules をベースにしつつほかの参照ツールと組み合わせた規則を用いて目録を作成している
- と回答したことが Abigail の調査で明らかになっている。
- 22) Abigail, Martin L., AMIA Compendium of Moving Image Cataloging Practice. Association of Moving Image Archivists, 2001, p. 13.
- 23) EN 15907: 2010-12. Film identification – Enhancing interoperability of metadata – Element sets and structures.
- 24) Dublin Core とは, 1995 年頃からインターネット上の情報資源の発見を目的として開発が進められたメタデータ記述要素であり, 現在は Dublin Core Metadata Initiative (DCMI) が, 維持管理している。“Dublin Core”. Dublin Core Metadata Initiative. <https://www.dublincore.org/specifications/dublin-core/> (accessed 2022-09-28).
- 25) EBUCore は, サービス向けアーキテクチャのコンテキストにおけるアーカイビング, 交換, 制作を含む放送用のオーディオやビデオなどの情報資源を記述するためのメタデータ仕様である。本仕様は, 欧州のデジタルライブラリー “Europeana” のような Dublin Core ユーザーとの相互互換性を最大化するために, Dublin Core をベースに設計されている。“TECH 3293 EBU CORE METADATA SET SPECIFICATION v. 1.10”. EBU. p. 3, 2020. <https://tech.ebu.ch/docs/tech/tech3293.pdf> (accessed 2022-09-28).
- 26) PBCore とは, 2000 年代前半に, 公共放送コミュニティ向けに開発された XML ベースのメタデータスキーマである。2005 年にバージョン 1.0 がリリースされて以降, 多くの機関が所蔵する視聴覚コレクションに関わるデータの構造化, 組織化, 共有のために本スキーマを利用している。“PBCore Handbook”. WGBH Media & Archives, and National Endowment for the Humanities. https://pbcore.org/assets/downloads/handbook/PBCore_Handbook_Full.pdf (accessed 2022-09-28).
- 27) 三浦和己, デジタル映画の管理用データベースの構成—データとメディアの分類を中心に—, 情報の科学と技術, 2022, vol. 72, no. 2, p. 62.
- 28) Harrison, Harriet., Ibid., pp. 8-9.
- 29) American Library Association. Anglo-American Cataloguing Rules, 2002 Revision, 2005 Update. American Library Association, 2005.
- 30) 日本図書館協会目録委員会編, 日本目録規則,

- 1987年版改訂3版. 日本図書館協会, 2006.
- 31) Miliano, Mary., International Association of Sound and Audiovisual Archives; IASA Editorial Group. "0.A. Source of information". The IASA Cataloguing Rules: A Manual for Description of Sound Recordings and Related Audiovisual Media. 1999. <https://www.iasa-web.org/cataloguing-rules/0a-source-information> (accessed 2022-09-28).
- 32) RDA Steering Committee. "2.2.2.3 Manifestations Consisting of Moving Images". RDA Toolkit. American Library Association; Canadian Federation of Library Associations; CILIP: the Chartered Institute of Library and Information Professionals. <https://original.rdatoolkit.org/> (accessed 2022-09-28).
- 33) 日本図書館協会目録委員会. 日本目録規則 2018年版. 2019. <https://www.jla.or.jp/mokuroku/ncr2018> (accessed 2022-09-28).
- 34) Tadic, Linda., Ibid., p. 12.
- 35) 視聴覚資料組織法研究班. 日本目録規則 1987年版による映像資料目録の作成について. 視聴覚資料研究, vol. 3, no. 4, 1992, p. 96.
- 36) 同上, p. 97.
- 37) Reilly, James M., "Chemical Deterioration of Film Bases". IPI Storage Guide for Acetate Film. Image Permanence Institute, 1993, p. 11. https://s3.cad.rit.edu/ipi-assets/publications/acetate_guide.pdf (accessed 2022-09-28).
- 38) 吉野馨治. 映画製作への悩み. 友 Iwanami Hall. 84号, 1975, p. 6.
- 39) <https://kirokueiga-hozon.jp/search-library/shisetsu-database> (以下, 各データベースの参照日はすべて 2022-09-28).
- 40) <https://kirokueiga-hozon.jp/search-library/chirashi-database>
- 41) <https://kirokueiga-hozon.jp/search-library/dento-bunka-database>
- 42) 26項目のうち, 「試写」「素材提供」「公開動画」は, 同センターの映像ライブラリー業務に関連する項目であり, 本稿の内容と直接関係がないため, 言及を控える。
- 43) 白黒のポジティブ(陽画)に染色(tinting)あるいは調色(toning)した作品もカラー映画に分類される場合があるが, 今回の調査対象の中に上記の手法を用いた作品はない。
- 44) フィルム上および映写における映画映像の高さと幅の比率. Blandford, Steve., Grant, Barry Keith., Hillier, Jim 著. 杉野健太郎, 中村裕英監修・訳. フィルム・スタディーズ事典: 映画・映像用語のすべて. フィルムアート社, 2004, p.14.
- 45) <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/86886>; <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/87131>; <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/86892>; <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/87438>; <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/86914>
- 46) <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/85791>; <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/84895>; <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/86690>
- 47) 草壁久四郎. 映像をつくる人と企業—岩波映画の三十年. みずうみ書房, 1980, p. 71.
- 48) <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/86871>; <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/84706>; <https://kirokueizo.jp/db/search/eigadata/view/85184>